

かさいまさひろ

葛西昌丕関連文化財

陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑【岩手県指定文化財・天文遺産】

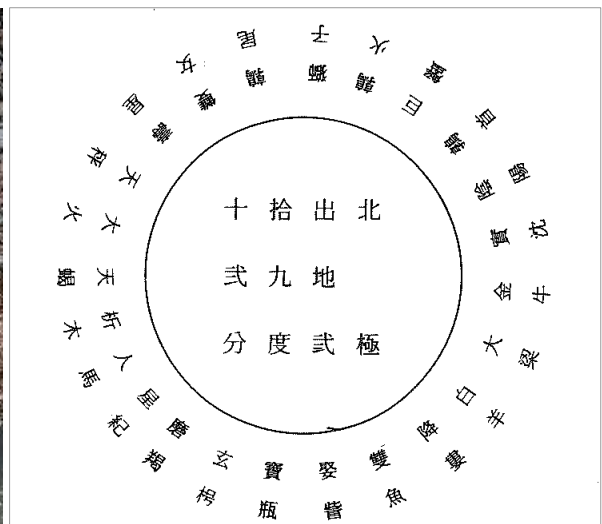
伊能忠敬が唐丹村を測量した13年後の文化11(1814)年に、伊能の業績を讃えて記した石碑です。さそり座を意味する「天蝎」の文字と伊能が測量の結果から北緯39度12分を得たと刻まれています。また、当時の最先端の西洋天文学の説を理解し、「地球の微動有らざらんか」⇨地球は微動するという西洋の天文学の説を、後世の人に確かめてもらいたいという未来の天文学者に向けたメッセージ内容が記されています。伊能忠敬が存命中の顕彰碑としては唯一のものでありながら、科学的見地に基づいた測量を実施した証明資料として極めて重要です。



天蝎
 陸奥 量北極出地度数越享和元年辛酉秋
 州気 九月二十四日以及我郷測定為三
 仙郡 十九度一十二分蓋測量之法古疎而
 唐丹 今密也慶長之初欧邏巴之商客舶載
 村測 新製測器我方補之益精測量之法於
 量之 是乎始明矣竊以天道幽玄不可究知
 碑 若拋西洋之說則復不有所謂地球微
 動者乎請願後世諸彦或知其異同矣
 文化十一年甲戌秋月
 葛西昌丕謹識

星座石(岩手県指定文化財・天文遺産)

測量の碑と同時期に作成され、奇巖亭に建立されていました。中央に北緯39度12分、外周に黄道十二宮(星座)と十二次(季節)が刻まれています。季節と方角を示すことで測量の証明資料です。地方の西洋天文学の普及を示す貴重な資料です。



嘉遯翁遺愛碑(市指定文化財)

天保7(1836)年、葛西昌丕の義姪安基^{あんき}と弟子の葛西徳義、角地信近によって、昌丕の偉業を讃えて建立されました。嘉遯とは昌丕の晩年の号で、正しい道を行うために世を離れるという意味です。碑文には「天象を論じては正確詳密専門の名家といえどもまたよく一辞を措く能わず」とあり、昌丕の天文学の学識の豊かさが記されるほか、「奇巖亭」の様子や昌丕の人物像などが記されています。

葛西昌丕墓碑(市指定文化財)

葛西昌丕と親交のあった儒学者、久子翠峰によって「嘉遯翁遺愛碑」が奇巖亭に設置されたことが記されています。

常龍山碑

文化11(1814)年、常龍山権現(現在の天照御祖神社)遷宮を記念し、建立されました。碑文は葛西昌丕によって書かれ、「坂上田村麻呂が常龍山鬼を退治し、骸を封じるため観世音を安置した」と神社の由来が記載されています。



嘉遯翁遺愛碑



葛西昌丕墓碑



常龍山碑

新道峠(通称：清水峠)の庚申塔(市指定文化財)

天保4(1833)年の大飢饉において、地域の有力者達が私財を投じて貧困者を救済するため、新道峠(清水峠)の開削を行います。これを記念して建立された庚申塔の裏面に葛西の隠居名「白岬翁嘉遯」が記されています。



奇巖亭【葛西昌丕隠居屋敷跡】

葛西昌丕は仏ヶ崎半島の中央南岸に隠居屋敷を立て、嘉遯と号して弟子の教育にあたりました。この屋敷跡は齊藤竹堂の『循海日餞』に「奇巖亭」と記されています。

現在は池の跡や石垣、段状の地形を見ることができ、唐丹地区では有志による清掃活動が定期的に行われています。



天照御祖神社三扁額(市指定文化財)

文化 11(1814)年、常龍山権現(現在の天照御祖神社)遷宮を記念し、奉納されました。和歌扁額は 65 首からなり、葛西は 13 首を詠んでいます。このうち一首には

「庭火堂く佐よ春ミ人乃まとみ居て更類霜夜の赤星能声」と星を詠んだ歌があります。

